

利用案内

【草雲美術館】

この美術館は、鈴木栄太郎氏の寄付により草雲ゆかりの地、白石山房内に建設され、昭和44年5月に開館しました。幕末から明治にかけて活躍した田崎草雲の作品を蒐集、保存し、一般に公開しています。

【開館時間】 午前9時～午後4時

【入館料】 一般・高校生 210円（160円／20名以上の団体）
中学生以下無料

【休館日】 毎週月曜日（祝日、振替休日を除く）
祝日・振替休日の翌日（土・日曜日を除く）
年末年始・館内整理日 *要問い合わせ

【画室・茶室】 田崎草雲の住まいであった白石山房を利用することができます。お申込み・お問い合わせは草雲美術館まで。利用日は草雲美術館開館日に限ります。

【使用料】	午前9時～正午	午後1時～午後4時
画室	2,310円	3,150円
茶室	1,570円	2,310円



【画聖草雲会】

画聖草雲会は、足利のために活躍した田崎草雲の偉業を顕彰し、郷土の誇りとする意識の高揚を図るとともに、草雲美術館及び田崎草雲の住まいであった白石山房を盛上げることがを目的としています。

●会費	一般会員（個人）	3,000円
	賛助会員（個人及び法人を含む団体）	5,000円以上

- 会員特典
- ・会員証の発行
 - ・草雲美術館入館料無料
 - ・足利市立美術館観覧料2割引
 - ・鑑定会等の参加料割引
 - ・企画展・イベント等の案内送付

- 画聖草雲会主催の主なイベント
- ・春・秋の演奏会／夜桜・十五夜をみる会
 - ・鑑賞会バスツアー／草雲作品鑑定会
 - ・草雲命日の法要／学習会 ほか

- 申込み
- ・会費を添えて事務局（草雲美術館）まで



【交通案内】

- 車 / 北関東自動車道「足利I.C.」より15分
北関東自動車道「太田・桐生I.C.」より10分
- 電車 / JR両毛線 足利駅からタクシーで7分
東武伊勢崎線 足利市駅からタクシーで6分
- バス / 東武足利市駅・JR足利駅より、生活路線バスで「通6丁目」下車。徒歩10分

【駐車場】

- 草雲美術館と足利公園の駐車場をご利用ください。
大型バスでご来館の方は、お問い合わせください。



草雲美術館

〒326-0816
栃木県足利市緑町2丁目3768（足利公園内）
TEL./FAX. 0284-21-3808
URL <http://www.city.ashikaga.tochigi.jp/site/soun/>

田崎草雲 略歴

1815年 (文化12)		10月15日江戸神田小川町足利藩邸に生まれる。
1822年 (文政5)	8歳	遠戚の金井烏洲に読書、習字および画道を学ぶ。
1829年 (文政12)	15歳	加藤梅翁に師事し、和歌、俳諧、易、四条派を学ぶ。
1830年 (天保元)	16歳	書を荻原秋巖に、剣を千葉の門に学ぶ。
1831年 (天保2)	17歳	元服する。名を芸、諱を明儀(後に明義)通称を恒太郎と改める。画号を「梅溪」とした。
1835年 (天保6)	21歳	春木南溪に師事した後、谷文晁に入門し写山楼にて画論と画法を学ぶ。
1837年 (天保8)	23歳	松井菊子を娶り浅草今戸に新居を構える。翌年格太郎が生まれる。
1848年 (嘉永元)	34歳	浅草山谷掘に移る。河野守弘と協力して『下野国誌』の挿絵を描く。翌年、中国における阿片戦争の惨禍を伝える『海外新話』が発行され、その挿絵を担当する。
1853年 (嘉永6)	39歳	父恒蔵病死。足利藩戸田家の絵師となる。翌年「草雲」に改号。
1859年 (安政6)	45歳	妻菊子病死。画道に専心するも1861(文久元)年、藩主に従い足利に移る。
1865年 (慶応元)	51歳	足利藩改革、民兵誠心隊の結成に奔走。
1867年 (慶応3)	53歳	格太郎夫妻江戸において心中する。
1869年 (慶応4・明治元)	54歳	梁田戦争で官軍が旧幕軍を打ち破る。誠心隊は領内の治安維持に出動する。
1876年 (明治9)	62歳	足利学校の貴重な古書の処分を県に中止させる。
1878年 (明治11)	64歳	白石山房が完成する。パリ万国博覧会に《白波紅歌図》、《三寿》を出陳。名誉賞牌受賞。
1882年 (明治15)	68歳	第1回内国絵画共進会に《春山曉霞図》、《秋山晚暉図》を出陳、銀印「得宜」受賞。
1884年 (明治17)	70歳	第2回内国絵画共進会に《十指春風図》、《一棹揺山図》を出陳、銀印「蒼古」受賞。
1887年 (明治20)	73歳	皇居御杉戸(四季花卉翎毛)4図8枚を揮毫する。
1890年 (明治23)	76歳	帝室技芸員を拝命する。青山御所、日光御用邸に伺候して御前揮毫する。
1893年 (明治26)	79歳	アメリカのシカゴ万国博覧会に《富嶽晴色図》を出陳、名誉大賞牌を受賞。
1898年 (明治31)	84歳	9月1日永眠。足利西宮町長林寺に葬られる。



草雲73歳

所蔵作品の紹介



富嶽図

栃木県指定文化財
絹本墨画
154.0×154.0cm
1894(明治27)年

直径154cmの円形絹本に水墨をもって描かれた富嶽図ですが、仰ぎ見るものは、その構図の雄大さと筆力の雄渾なるに圧倒されます。一気に引かれた稜線の力強さ、そして流れ行く雲によって富嶽の静寂はひとしおに感じられます。



蓬萊仙宮図

栃木県指定文化財
絹本着色
175.0×85.0cm
1874(明治7)年頃

海のかなたにある蓬萊仙宮を描いた草雲の代表作です。近景に大きな波、中景に小さな波、遠景に鶴が舞う蓬萊島を描き、それぞれの間を雲煙がつないでいます。伝統的な日本画の描き方を踏まえた波の表現は、独特な遠近法といえるもので、草雲の斬新性を感じさせます。



武陵春色図

絹本着色
142.0×84.0cm
1865(慶応元)年

桃の花が咲き乱れる桃源郷が描かれています。武陵の漁夫が、桃源郷に迷い込んだ中国の故事に基づいた作品。鮮やかな彩色を駆使した桃林、繊細な山肌の表現の構成も巧みであります。



桃花乳鳩図

絹本着色
162.2×42.5cm
明治期

桃の花が咲く枝に鳩が羽を休めている様子が描かれています。左下がりの枝に鳥が止まる構図は、よく南蘋派が用いたもので、写山楼など江戸での学習を通して草雲が身につけたものと考えられます。鳩の柔らかい質感を出すために輪郭を強調することなく、繊細に筆を運んで描いた見事な花鳥画です。